



発行 / 小諸市公民館
編集 / 館報編集委員会
〒384-0801 長野県小諸市甲 1275-2
TEL 0267-23-8880 / FAX 0267-25-2224

定結果も出ましたので、ぜひご覧ください。

「出張！なんでも鑑定団 in 小諸」開催!!

11月23日(木・祝)勤労感謝の日に「出張！なんでも鑑定団 in 小諸」が開催され、応募者92名の中

から選ばれた5名の方のお宝が、テレビでおなじみの鑑定士3人により鑑定されました。司会の原口あきまさ氏と依頼人によるお宝にまつわるエピソードをめぐっての掛け合いで、会場は大変盛り上がりしました。放送日は、テレビ東京は1月23日(火)、テレビ信州では4月頃の予定です。驚きの鑑定結果も出ましたので、ぜひご覧ください。



◆内容

- p.18 新年のご挨拶
p.19 「みんなの宝物」(彌美登里神社例大祭)ほか
p.20 「ぼくとわたしの作品」(小諸養護学校)
p.21 新企画「まなびや」(学校の記憶～坂の上小学校編～)
p.22 「今 支館・分館では」
～23 (小原分館 / 糠地分館 / 東小諸分館) ほか



カラー版はこちら

新しい年が始まりました。
町の中はお正月の飾りで華やいでいます。私の住んでいる地域には鹿島神社と健速神社の2つの神社があります。鹿島神社は、かつては小諸駅から少し登った町の中にありました。小高い丘の様な所で、子ども頃はそこで近所の子ども達と集まって遊んだ思い出があります。小諸駅ができたことで現在の場所に移転となりました。昔の神社があった場所は、現在、鹿島町という商店街になっています。神社があった名残りの名前が付いているのだと思います。11月にはお祭りもあり、大勢の人で賑わいました。健速神社は夏の神輿で知られています。地域の中には、健速神社と鹿島神社の両方に初詣に行く熱心な方々もいます。

お正月の華やいだ気分ですが、昨年を思うと猛暑に台風、また新たな戦争も始まり大変な年でした。今年は平和で災害の少ない穏やかな一年になることを切に願うばかりです。

編集委員 大塚 かほる

新年

「新春を迎えて」

小諸市教育長 山下 千鶴子



新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、公民館活動へのご協力誠にありがとうございました。コロナ五

類移行により世間との交流が緩和されほっとしたところですが、世界を見るにあちこちで戦火が絶えません。

7月から始まった「小諸市民大学」は戦争をテーマにした

講義が印象に残りましたし、市内中学校で開催の音楽祭でも多感な少年たちが未来への希望や心構えに加えて、世界平和を希求する曲を選定し歌声に乗せていたことも心に重く響きました。

そんな中、公民館まつり「ワクワク筆文字」コーナーで目に留まった言葉に勇気をいただきました。今を精いっぱい生きることが大事ととらえま



筆文字は両角久美子先生の書

さて、小諸市内両中学校の生徒が受講したサマー・サイエンス・スクールを紹介しましょう。名前の通り、最先端の科学にふれ、科学の面白さや不思議さ、楽しさを味わう三日間の講座開設でした。その中の一つ「ゾウの時間・ネズミの時間・私たちの時間」はなかなか興味深いものでした。ゾウとネズミの寿命とエネルギー量（仕事量）を比較することから講義は始まります。次は、車やコンピュータで加速された現代の「時間」環境に生きる人間に焦点が当たります。技術革新は私たちに便利さと効率的な生き方を与えてくれます。反面、膨大なエネルギー消費や昼夜を分かつた長時間労働・・・と多くの課題が提示されます。最後に本講座講師は語りかけます。「人類の存続、安心した生活を保障していくのは君たちの世代である」と。本講座は今年も開設の予定。中学生諸君、夏休みの3日間、科学と出会ってみませんか？

本公民館でも、先の市民大学や公民館まつり、その他多くの講座を計画しています。今年も皆様の「人・モノ・コト」との素敵な出会いを祈念しまして新年の挨拶とします。

「人とつながる」

小諸市公民館長

土屋 明美



新年あけましておめでとうございます。

市民の皆様には、希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は、公民館をはじめ文化会館・こもろ女性の家等文化センターの諸事業に対しご支援、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

昨年はコロナウイルスの感染法上の分類が緩和され、徐々にコロナ禍以前の日常が戻ってきました。公民館の集う・学ぶ・結ぶという役割が果たされるようになり大変嬉しく思っております。

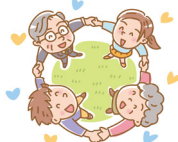
さて、昨年9月、関東甲信越静公民館研究大会が長野市で開催され、その記念講演で平昌オリピック金メダリストの小平奈緒さんのお話しをお聴きする機会

を得ました。「人とつながる」というテーマのもと、スケートを通してつながった多くの人との出会いと、その関わりを通して学び、成長した経験について語られました。「人は人に依って賢し」のことわざを思い浮かべながらお聴きしました。

公民館は人と人の出会いの場、そして一緒に学び、時には切磋琢磨し、成長し合う場です。一人一人の成長はもとより、ここで学んだことをより良い地域づくりに活かしていただけたら幸いです。本年も多くの市民の皆様が公民館をご利用いただくとともに、公民館事業にご理解とご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。



みんなの宝物



『彌美登里神社例大祭』 (耳取区)



小諸市耳取区は、江戸時代火縄銃製造の地でした。

丸山氏、吉澤氏が銃工の頭で江戸幕府や小諸藩へ銃を納めていました。彌美登里神社境内は角場(射撃場)で、小諸藩主を招いて火薬の実験をした場所でした。神社拝殿に掲げられる明治4年の絵馬(69名による射撃の金的奉納額)は県下に類がなく貴重な文化財で、小諸ふるさと遺産にもなりました。

そうした歴史ある彌美登里



神社例大祭古式砲術奉納が、秋深まる10月8日(日)正午、松本藩森重流保存会の市川恵一氏、小林透氏の両名により執り行われました。

始めに礼射、正座した状態からの発射、境内に大きな破裂音が響き渡り「わあー」と声が上がりました。発射の前後の礼を尽くした美しい所作が印象的でした。

次に早打ち、2人が交互に発射、続いて大筒抱放、重さ25kgの大きな火縄銃の発射です。轟く発射音に境内から拍手が沸きました。



午後2時から、本殿にて神事が執り行われました。その中で区内の小学5・6年生4名による浦安の舞が奉納されました。浦安の舞には「心安らか」平和を祈る心の舞、と言った意味があるそうです。清らかな少女達の凛とした舞は、清楚な美しさが際立ち「シャン」と奏でる鈴の音に心洗われる思いがしました。振り付けは、神宮の方から直接指導を受けているそうです。

最後に、耳取地区の繁栄を願う例大祭は終わりました。次回は皆さんも見学にお越しください。

編集委員 木内 順子



火縄銃
奥 丸山氏由来の銃
手前 吉澤氏由来の銃

『彌美登里神社で開催された砲術演武について』

松本市で江戸期からの「松本藩森重流砲術」が伝承されているが、保存会の代表者である市川氏より平成28年に砲術の演武を披露したいとの申し入れがあった。

市川氏はそこで使用している火縄銃の所有者でもあり、その銃は耳取の丸山一門が製造した物であるとのことであった。

江戸時代には、旧耳取村から江戸幕府や小諸藩に銃が納められており、彌美登里神社は射撃場として使われ、拝殿に掲げられた絵馬(射撃の金的奉納額)は貴重な文化財となっている。

古式砲術の奉納は、平成28年に第1回が行われ、令和5年で5回目となった。

(吉澤壮夫氏より)

第59回 児童生徒新年書初め展

市内に居住する児童生徒、市内の学校・書道塾へ通う児童生徒の
新年への希望や決意を込めて書いた作品を展示します。

【開催日】 令和6年2月2日(金)～4日(日)
【時間】 9:00～17:00(最終日は16:00まで)
【会場】 乙女湖体育館(小諸市文化センター内)



図 児童生徒新年書初め展事務局(小諸市文化センター内) ☎ 0267-23-8880



小 諸 養 護 学 校

「ぼくらの作品たち」

中学部1年

かしわぎ えいた
柏木 瑛太



ぼくは、作品づくりが大好きです。夢中になっていると時間があっという間に過ぎていくので、不思議な感じです。ちぎり絵では、ちぎった紙が小さいときには、貼ろうとする場所とにらめっこです。画用紙にマジックや絵の具で絵を描くときは、腕を大きく動かして、思いっきり描いていきます。無地の画用紙に、線や模様が増えていったり、ぼくの好きな青や紫などの

色が、画用紙一面に広がったりしていくのが楽しいです。

チャレンジタイムという授業では、布を使ってクリスマスリースやくるみボタンを作っています。クリスマスリースは、好きな柄の布を選んで、先生と一緒に土台に差し込み、リースを仕上げていきます。くるみボタンは、しっかりと型にはまるように力強く押し込むことがきれいにできるコツですが、ぼくは得意です。

完成したぼくらの作品たちは、ぼくにとって大切なものです。ぼくは、これからもいろいろな作品たちを作っていきたいです。



「楽しかった宿泊学習」

中学部2年

こばやし たいおう
小林 泰士



ぼくたちは5月に松代方面に宿泊学習に行きました。

1日目は、茶臼山動物園に行き、ライオンを見たり、大きな象を見たりして普段見られない動物たちを見て回ることができておもしろかったです。どの動物たちもかわいかったので、画用紙に描けるだけ描きたいと思いました。

おやき作りも体験しました。初めてで、ちゃんとできるか不安でしたが、教えてくれるスタッフさんの話をよく聞いて生地を丸めたり、その生地で野沢菜とあんこを包んだりすることができました。自分で作ったおやきだったのでとても美味しかったです。

2日目は、「松代陶苑」で松代焼の茶碗作りをしました。初めてでしたが、スタッフさんの説明を聞きながら作

りました。焼きあがった茶碗が届きました。青く輝く良いものができあがってきてとても嬉しかったです。

とても楽しくて思い出に残る宿泊学習でした。来年の修学旅行も楽しみです。





「まなびや」とは
小諸市では学校再編計画が進行中で、小中一貫教育、小学校の統合などと教育のあり方が大きく変わろうとしています。公民館報編集委員会でも学校が出来た当時のこと、校名の由来など地元の人しか知らない話や、今とは違う学校の状況などを後世に残したいという話になり「まなびや」のコーナーを新設しました。

『学校の記憶』

～坂の上小学校編～

私は小学校5年生の時に、父の転勤で東京から小諸の実家に戻ってきました。いわゆる「都会からの転校生」でした。

2学期からの転入でしたが、白い靴下に新しい上履きを履いて5年3組のクラスに入ると、衝撃の光景と「都会っ子〜!!」という歓迎のヤジに迎えられました。皆、黒々と日に焼け、靴下など履いておらず、しかも上履きすら履いていない!! それは廊下もトイレも学校内はもちろんのこと、家庭も裸足で走り回っていました。これが夏だけの

ことかと思っていたら、冬でも半そで半ズボン、しかも裸足の旧友も複数いました!! 私の記憶違いかもしれないと思ひ、先日その記憶にある同級生を訪ね確認してみると、確かに同級生のN君は「俺は最後まで裸足を貫いた!」と胸を張って教えてくれました。

このクラスでは、毎朝学校の敷地の周りを走って、その距離を模



造紙に書かれた棒グラフに書き込んでいました。中には大阪までの距離を往復したダンツの猛者もいて、中学・高校では陸上部に入り好成績を収めていました。

私はこの校風というか、担任のT先生の教育方針が肌に合ったのか、すぐに溶け込み、調子に乗って沢山のイタズラをし、今では言えないような「愛のムチ」をたくさんいただきました。クラスごとに特徴があり、1組の先生は、黒板の横にぶら下げてある長い木の「物差し」を使って生徒指導をされる方で、私も一度ご指導いただいた記憶があ

ります。2組の先生はかなり年配に感じましたが、担任のT先生がお休みの時は、ちょこつと顔を出して、よく「怪談話」をしてくれました。担任の先生のお休みが少し楽しみなほど面白かった記憶があります。

卒業記念のタイムカプセルは、今も低学年棟の庭のオブジェの下に埋まっています。「あおげば浅間ハケ岳 望めば千曲佐久平〜」で始まる校歌のこの学校は、大正15年に敷かれた「一校二部制」の内の「第二学校」のスタートを創立年としており、あと数年で100周年を迎えます。小中学校の再編統合の前に記念すべき周年行事ができるのを期待しますが、タイムカプセルはその際に同級生と掘り起こしてみたいと密かに思っています。

学校の沿革を少し紐解いてみると、昭和12年に「一校三部制」となり、「第一（高等科）・第二（中学年）・第三（低学年）」に分かれ、昭和22年にそれぞれ「小諸中学校」・「坂の上小学校」・「野岸小学校」と命名されました。あいおい坂公園にある大きな石碑が「小諸中学校」跡であ



り、1〜3年生の通った第三学校は「野岸小学校」となり、4〜6年生は今の「坂の上小学校」に通いました。昭和10年生まれのご近所の方にお話を聞くと、やはり「低学年の時は野岸小に通い、高学年になって坂の上小に移った」とのこと。当時は男女でクラスが別であったが、新制中学の一期生として進学した時「男女共学」となって少しドキドキしたとお思ひ出を語ってくれました。

まだまだ私の思い出は尽きませんが、他にもたくさんの方々からリレー方式で「学校の記憶」を投稿いただければと願います。

編集委員 楚山 伸二
(坂の上小学校昭和55年度卒)



『敬老会』

— 小原分館 —

4年ぶりに敬老会を開催し、7団体による日頃の練習の成果と心のこもった発表がありました。

まず、「交通安全協会小原支部」から、高齢者の交通安全のお話がありました。次は小諸市公民館まつりでも発表をした経験のある「アロハつばき」のフラダンスです。息のあった妖艶な踊りに会場内は、魅了されました。次の「育成会」は、小学生の歌で和ませてくれました。「小諸消防音楽隊」は、大迫力の素晴らしい楽器演奏をしてい

今 支館・分館では

『夏の恒例登山』

— 糠地分館 —



糠地分館では、毎年夏の恒例行事として三方ヶ峰登山を開催しており、2014年度には60回目となりました。糠地公民館から、今では幻の登山道ともいえる深沢溪谷の4時間を超えるコースを登る登山組と、マイクローバスで向かう保護者や高齢者組が池の平駐車場で合流して、昼食やスケッチ大会なども行ってきました。

台風の被害やコロナ禍の影響で、2018年度を最後としていましたが、育成会、公民館、区の役員での協議の結果、松橋区長の「60年以上続く行事、何とか開催したい」という言葉もあり、登山ルート途中の「ねんぼう岩」までを往復するトレッキングでの

『区民祭・文化展』

— 東小諸分館 —

10月22日(日)に東小諸集会場で区民祭と文化展を同時開催しました。例年9月に実施していましたが、コロナ禍で4年ぶりの開催となり、事前準備等で1ヶ月遅れとなりました。

各役員は朝8時に集合し、準備作業を開始。久しぶりの作業のため「あーだ、こうだ」と言いながら TENT など張ったり炭をおこしたりと、何とか予定時刻の10時に間に合わせました。区内一斉放送で区民祭スタートを告げました。

模擬店では、焼き鳥・焼きそば・とん汁・おこわ・綿あめ。それから、ちよつと季節外れのかき氷、アルコール類やジュースなど、お祭りならではのグルメを販売しました。朝のうちは気温が低かったの

ですが、晴天となり気温も上がり、心配していた生ビールやかき氷もまずまずの売上となりました。新型コロナウイルスも第5類になり、平



第8回 小諸市文化会館自主事業

邦楽のつどいと 箏・尺八鑑賞会

入 場 料 1,000 円 (小中学生以下無料) 全席自由

チケット販売 小諸市文化センター / 出演団体

【特別出演】 紫綬褒章受章 山田流四代目家元 萩岡松韻

夢古流尺八三代目 青木鈴慕

鈴木厚一 / 萩岡松柯 / 田中奈央一 (勇希奈央人) / 萩岡由子 / 青木滉一郎 / 堅田新十郎連中 / 松風光陽 ほか

【出 演】 詩吟: 浅間吟道会 / 茶道: 裏千家流 (小林社中、太田社中) / 合唱: コール・フローラ小諸、小諸合唱団、合唱団小諸ハーモニー
三曲: 渡辺秋翠孝社中、青童会、小諸キッズ邦楽教室、東小ワクワク大夢おことクラブ
舞踊: 西川扇千草社中、西川扇乙洋社中、西川喜枝治社中



ロビーにて表千家友和会による呈茶 (無料) 11:30 ~ 12:30

問 小諸市文化センター ☎ 0267-23-8880



いただきました。「アコースティックギターによる弾き語り」は、心に沁みました。「ユカレレ」はウクレレ演奏で、会場の皆さんと一緒に歌を歌いました。歌うことは脳トレにとっても良いそうです。最後はお待ちかねの、「やよい座」の発表です。地元につつまるシナリオ作りから演出まで、全て自分達で手掛けた劇です。力いっぱい演技に拍手が鳴り止みませんでした。カーテンコールでは、フラダンスの踊りが披露され、幕引きとなりました。

やっと元の敬老会が戻ってきて、和やかな敬老会の1日となりました。招待された高齢者の皆さんもたいへん満足された様子でした。来年も、皆さんが元気で、敬老会に集ってくれることを願っています。

本館主事 中澤 栄二

開催となりました。

かつては地区の子どもだけで60人以上の参加があったと聞いていますが、5年ぶりの開催ということもあり子ども12名を含む保護者や役員35名の参加でした。

8月26日(土)の朝、深沢ダム上の駐車場を出発。びょうぶの様に見える切り立った岩壁が相対するびょうぶ岩を右側に見ながら、弁慶の茶釜が隠されているとの言い伝えがある、高さ約30メートル余の「捻棒」の形をした奇岩、「ねんぼう岩」を目指しました。途中の水力発電を利用した公衆用トイレは発電施設が復旧できておらず、仮設トイレを軽トラックに載せて現地まで運びました。

今回のイベントでは、林野庁・中部森林管理局・東信森林管理署の方々より森林講習を実施していただきました。子ども達に向けたイベントではありましたが、ドローンによる「ねんぼう岩」の上部や、上空からの小諸の街が車後部に乗せた大きなモニターに投影されると、大人たちも食い入るように観て楽しんでいました。

今後は、さらに地区の子どもの人数が減っていくことも懸念されますが、時代に沿ってルートや移動手段など、形は変われど地域みんなの絆を強めるこの大事な夏の行事をみんなで見守っていただければいいと感じながらの下山でした。

糠地分館主事 税所 康貴



穏な生活が戻りつつありますが、まだ予断を許さない状況です。テイクアウト中心の販売でしたが、中には早速、集会場の庭のベンチで食べ始める人もいました。

一方、文化展では子どもからお年寄りまで30人ほどの区民の皆さんから作品が寄せられました。日展にも入選された絵画100号の大作から、写真・手芸・木彫り・絵手紙・編み物・川柳などの芸術作品が多数出品され、多くの区民が出来映えに感心しながら鑑賞していました。

売り切れ続出の模擬店もあり、大盛況のうちに午後3時に終了しました。区内の各種団体、公民館役員など多くの皆様のご協力で、楽しい笑顔溢れるイベントが開催できました。今後も、区民の親睦を深められるよう、工夫しながら開催していきたいと思っています。

東小諸分館長 小林 勇市

主催 NHK 長野放送局・小諸市文化会館自主事業実行委員会



NHK-FM

「民謡をたずねて」

公開収録が行なわれます！

「民謡をたずねて」(NHK-FM)は、日本を代表する民謡歌手が、地元をはじめ全国各地の民謡の魅力をつつぷりと紹介する番組です。詳細は、公民館報こもろ2月号、NHK 長野放送局のホームページをご覧ください。



NHK 長野放送局 HP

【日時】令和6年3月9日(土) 開演 13:30 (開場 13:00)

【場所】小諸市文化会館ホール

【観覧】無料ですが、事前の申し込みが必要です。

会場 小諸市文化センター

☎ 0267-23-8880

各施設
予約開始日

施設名	利用月	施設名	利用月	予約開始日
公民館・こもろ女性の家 (貸出備品含む)	R 6 / 3	乙女湖体育館	R 6 / 7	R 6 / 1 / 4(木)
		文化会館	R 7 / 1	

